

テーマ：アイヌの人たちの歴史・文化等（実践校）

釧路管内 釧路町立昆布森中学校

■本実践のポイント（概要）

- ・ふるさとに対する愛着や誇りを育むため、総合的な学習の時間において、修学旅行におけるウポポイでの施設見学や調査活動、外部講師による講話を位置付けるとともに、「自然との共生」や「よりよく生きること」をテーマとして探究的に学んだことの成果を報告する学年報告会を行いました。

■ふるさと教育・観光教育の実践内容

①取組の様子

(1) 課題の設定

社会科等の学習と関連させながら、「自然との共生」や「よりよく生きること」について自分の考えや実現に向けた難しさ等を交流し、生徒一人一人がそれらの実現をテーマとした探究的な課題を設定しました。

(2) 情報の収集

課題の解決に向けて、ウポポイにおいて古式舞踊や展示品等の見学を行い、「現代文化とアイヌの人たちの文化の共通点や相違点」「アイヌの人たちの文化のよさ」などを視点としながら、調査活動を行いました。帰校後は、町教育委員会が作成したアイヌの人たちに関する動画DVDの視聴や外部講師による講話等を通して、必要な情報を収集しました。

(3) 整理・分析

「自然との共生に向けて難しさを感じること」「アイヌの人たちの考え方や自分たちの考え方の違い」等を視点として、1人1台端末を活用しながら収集した情報を構造化するなど整理・分析しました。このことを通して、生徒一人一人がこれからの社会の在り方や自分の生き方について、さらに追究したいという思いをもつようになりました。

(4) まとめ・表現

1人1台端末を活用し、探究的に学んだことの成果をスライド資料等にまとめ、学年報告会で報告しました。アイヌの人たちの歴史・文化等を含む多様な考え方を踏まえ、「自然との共生」や「よりよく生きること」の大切さについて、理解を深めました。



【ウポポイにおける調査活動の様子】



【外部講師による講話の様子】



【学年報告会で発表する生徒の様子】

②生徒の感想等

- ・「自然との共生」に向けて、現状では多くの壁があることがわかったが、アイヌの人たちの自然観に触れることができたので、今後、多くの人の考え方を知りたいと感じた。
- ・講師の方からの「天から役目なしに降りてきたものはいない」という言葉が心に残った。これから、様々な場で、自分の役割を見つめ直して生きていきたいと感じた。

■取組の成果（○）と課題（●）

- アイヌの人たちの歴史・文化等に関するアンケートで、「今、住んでいる地域の歴史や自然について関心がある」と回答した生徒の割合が50%から75%に、「アイヌの人たちの歴史や文化についてもっと調べたいと思うようになった」と回答した生徒の割合が50%から75%にそれぞれ増加しました。
- 生徒が事象と出会う際、社会に見られる問題を自分事として捉えられるよう教師の関わりを工夫したことにより、課題解決に向けて情報を収集したり、整理・分析したりすることを通してこれからの社会の在り方について考える姿が見られました。
- 生徒が出会う地域資源や人材からどのような探究的な学習の展開が想定できるのかを十分に検討するなど、指導者が教材研究を通して、当該単元で育成する資質・能力を確実に育めるような探究的な学びへの理解を深める必要があります。